さぬき豊浜ちょうさ祭

毎年秋に開催される「さぬき豊浜ちょうさ祭」では、金色の山車が観音寺市豊浜界限を練り歩きます。この祭りは、10月第2週末の3日間、豊作・豊漁への感謝の意を表すために行われます。太鼓を乗せて、豊浜の街中を運ばれる山車（ちょうさ）にちなみ、その名がつけました。この種類の山車は、西日本の祭りで伝統的に使われてきましたが、豊浜やその周辺地域の山車は、他と比較しても最も大きく、もっとも豪華なもののひとつです。これらの山車は、最大で高さ5メートル、重さ2トンあり、長さ13メートルの木の棒に乗せられて運ばれます。装飾として、山車の上部に「とんぼ」と呼ばれる詰め物をした太いリボンが施されており、間近で見ると印象的な光景となっています。

豊浜は人口1万人弱ですが、28ある町内会のうち22町内会がちょうさを持っています。1台の山車を操るためには、約70人の担ぎ手の連携が必要となり、祭りの間、リズムカルな詠唱に合わせながら担がれます。ちょうさ祭の最終日には、22台の山車がすべて一宮神社まで運ばれ、太鼓が鳴らされ参加者が一斉に歓声を上げるなか、それぞれの団体が山車を上下して激しく震わせる演目が行われます。「ちょうさ祭り展示館」では一部の山車が展示され、祭りの映像が大画面で流されており、祭りの時期以外に豊浜を訪れる人でも、その様子を体感することができます。